

茨城の大地に平和運動をさらに根づかせよう！

県平和委員会 2010 年度大会に 77 名が参加！



新事務局長 木村 泉さん

地域に共同の輪を拡げよう！

「地域に根ざし、地域との共同行動を発展させ、会員を増やし組織強化を」—6月19日、茨城県平和委員会は2010年度県大会を県立青少年会館において開催しました。全県から参加した75人の役員・代議員が、熱意を込めた討論を行いました。また、千坂純日本平和委員会事務局長、大内久美子日本共産党県会議員の2名の来賓挨拶を受けました。

午前中に09年度活動報告・10年度運動方針の提案・決算報告・予算案の提案及び、会計監査報告を行いました。昼休みにはDVDによる「平和の道」（どうするアンボに所蔵）を観賞し、60年安保の闘いなどを振り返りました。

午後の討論では、19名方々の発言があり、地域での活動状況・署名運動への取組み・北朝鮮の問題・訓練飛行の騒音問題・自治体への働きかけ・平和パネル展の取組み・参院選への取組み等々、多岐に渡っての報告・意見・提案が出されました。核兵器廃絶の署名活動で地方自治体首長・議会関係者等への幅広い呼びかけ（守谷・石岡・阿見）や、他の市民団体と共同しての行事の開催（土浦・笠西）など、今後多くの地域で展開していきたい活動経験が報告されました。

10年度の役員選出では、代表理事として飯村一雄・植田金

雄・伊達郷右衛門・中山弘子・水野秧一郎の各氏、新事務局長として木村泉氏が選ばれました。常任理事、会計監査及び理事については次号にて紹介します。

今回の大会では、間近かに迫った参院選に向けての大会特別決議（別掲）を採択しました。

大会終盤の新役員の紹介と挨拶（水野代表理事）、閉会のあいさつ（植田代表理事）に込められた熱い平和運動への想いを、参加者はそれぞれ胸に秘め、各地域で活動することを決意して幕を閉じました。（小林 和栄）

新事務局長です。よろしく！

事務局長 木村 泉

過日行われた大会で新しく事務局長となりました。伊達前事務局長からすると見劣りしますが、精一杯頑張ります。ご鞭撻よろしくお願ひします。

私は、昨年4月定年退職し、5月に鹿行平和委員会から推薦され、県の常任理事として事務局の一端を学ばせて頂きました。ただ、本年3月まで講師をしていましたので、力にはなれなかったのではないかと考えています。

本年5月末、山梨で行われた日本平和委員会の総会に先輩方3人とともに初めて参加しました。全国各地で軍事基地撤去をめざす取組みが行われています。その闘いの激しさを当事者の肉声で聞くことができ、非常に感動しました。またその背後に日米安保条約という軍事同盟があることを、豊富な闘いの経験を伺うなかで、より一層深く理解できました。

先日行われた県総会では、県内各地の平和委員会（平和の会）のとりくみの経験をたくさん伺いました。本当に心強いかぎりです。本年1月に実施された百里基地の日米共同訓練が「レベル1」から「レベル2」に引き上げられています。これも沖縄の普天間基地移転の問題とダイレクトにつながっています。沖縄の米軍基地撤去を直接支援する活動と同様、県内地域での平和への

とりくみが日本全国、さらには国際的な平和運動につながっていることを痛感します。

世界の流れは、核兵器や武力によらない方向に大きく転換しています。多くの人たちの共同の力で、地域から平和への声を上げましょう。微力ですが事務局の仲間とともに、運動を広げていきたいと思ひます。ともに頑張りましょう。



大会代議員の皆さん



歓迎！新入会員のみなさんです

- 細川 千恵子さん（小美玉市）
- 小滝 昭吾さん（石岡市）
- 本田 年子さん（潮来市）
- 小林 良子さん（水戸市）
- 真田 正彦さん（笠間市）
- 根本 勝雄さん（潮来市）
- 香取 昌衛さん（潮来市）

亀・牛・かたつむりが歩むように、各平和委員会のみなさん1人1人の力で毎月5名の仲間づくりができれば最高です。

平和新聞	2010年6月25日（金曜日）
	1928号（毎月5,15,25日発行）
1950年12月16日第三種郵便物許可	発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館	
（郵送料月額120円） 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277	
平和かわら版	平和新聞茨城版 No. 566
	2010.6/25
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281	
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp	

2010 年度大会特別決議

来る参院選で平和勢力の躍進を！

参院選の火蓋が切られようとしています。平和と暮らしの向上を願う私たちにとって、沖縄の米軍基地と消費税が大きく問われる選挙です。

沖縄県民の長年にわたる苦しみの根源である米軍基地について、鳩山前代表は、昨年の総選挙で「普天間基地は国外へ、最低でも県外へ移転」と公約しました。ところが、首相になった後、アメリカ政府に、日米安保条約ならびに、沖縄の海兵隊基地の重要性についての「理解」と「公約」の放棄を迫られました。前首相は、若干の抵抗を見せましたが、結局はアメリカの言い分に押し切られ、「普天間基地は、辺野古と徳之島に移転する」との「日米合意」を残して首相の職を投げ出しました。

あとを継いだ菅首相は、県内移転の「日米合意」にしっかり取り組むと、アメリカ政府に約束しました。4月25日、沖縄の

全首長が参加して開かれた9万人大集会で示された県民の総意に真っ向から背く態度です。菅首相も岡田外相も、「沖縄県民の合意は必ずしも必要ではない」と公言しています。

歴代の首相は、国民の声には耳を傾けず、アメリカの顔色だけを窺っています。まるで日本が、主権在民でなく、「主権在米」の国であるかのようです。

日本の主権に関わる平和と暮らしをまもるために、国民の声を代表して、アメリカと財界に堂々とモノが言える政治勢力を躍進させなくてはなりません。「主権在米」の政治から「国民主権」の政治への転換をめざして、大いに地域、職場で力を尽くしましょう。

2010年6月19日 茨城県平和委員会 2010年度大会

NPT の成果を平和行進に！



県原水協協事務局長 岩清水理
NPT（核不拡散条約）の実施状況を点検する再検討会議が、西暦が5の倍数の年に開かれます。今年も、通例に従い、ニューヨークの国連本部で開催されました。今年の会議に向けた国際署名とニューヨーク行動、そして会議場での論議と結論は、「核兵器のない世界を」の世論を大きくひろげました。この成果を平和行進と世界大会に引きつぎ、進展させる取組みが重要となっています。

今年は、全国11の幹線コースと枝コースを、平和を訴えながら行進します。すでに多くの方が、8月の広島・長崎に向かって歩き続けています。東日本・太平洋コースの行進団は、5月8日、北海道礼文島を出発しました。青森・岩手・宮城・福島各県を経て、7月1日、本県北茨城市に到着の予定です。同日17時、平潟公民館で、行進団の福島県代表から茨城県代表への引きつぎ集会をおこないます。

翌2日から13日までの12日間、県内44の全ての市町村を通過します。今年も、昨年まで行進団が行かなかった水戸市役所（4日17:30）、小美玉市役所（8日15:30）、阿見町役場（12

日15:10）にも行くことになりました。通し行進者として、全国・鹿又静子（かのまたしずこ）さん（宮城県原水協）、中山熙之（なかやまひろゆき）さん（阿見平和の会）が、県内の全てのコースを歩きます。

< 行進月日と通過自治体 >

7/2（金）北茨城市・高萩市・日立市 7/3（土）日立市・東海村
7/4（日）東海村・ひたちなか市・大洗町・茨城町・水戸市
7/5（月）水戸市・笠間市・桜川市・筑西市 7/6（火）筑西市・結城市・八千代町・古河市 7/7（水）古河市・五霞町・境町・坂東市・常総市 7/8（木）常総市・下妻市・筑西市・桜川市・小美玉市・石岡市 7/9（金）石岡市・かすみがうら市・土浦市・阿見町 7/10（土）つくば市・土浦市・牛久市・龍ヶ崎市 7/11（日）取手市・つくばみらい市・守谷市 7/12（月）利根町・河内町・稲敷市・美浦村・阿見町・潮来市 7/13（火）小美玉市・銚田市・行方市・潮来市・鹿嶋市・神栖市
【別途】水郡線コース：7/3（土）大子町・常陸大宮市・日立太田市・那珂市・城里町

「平和運動に思う」

みとみなみ平和の会 田中 日出夫

『上原専祿（1899年～1975年）は、1952年「戦争のもっている非倫理性が、従来よりももっと強く、もっと深い次元で考えられ、そして否定されなければならない」と述べている。（【日本人の創造】東洋書館、宗像誠也と共著）。上原の平和への関心は、1950年の朝鮮戦争を契機とする。日本社会においてすべての人間は、いつでも殺される危険と、殺す危険の双方の危険の下に生活している。こうした確信を得ることで上原は、戦争と平和の問題を現代の問題の根本にすえ、平和教育が占める教育全体の重要性を強調する。

上原は、日本人の平和への念願は他の欲望を圧倒するほどに強いのかどうか、と疑問を投げかける。日本人の平和への関心が、安易に暮らしたい、商売の利益を得たい、自分の政治的立場を高めたい、などという他の要因への関心と比べ、本当に強いとはいえないのではないか、という。原子力兵器が人間性に対する破壊的な挑戦であることを感じておりながら、平和への願いが圧倒的な強さへとはならない日本人の平和認識。ここに解明すべき問題の核心があるとする。

勝ち組・負け組という二分法的競争原理の中に投げ込まれ、金を稼いでどんどん消費することこそが幸福の証であると思いきまされる現代社会に生きる私たちにとって、上原のこの指摘は平和教育の困難性の根の深さを知らされる。私たちは、ずっと同じ問題の前に立たされていたともいえた。認識は深められてきたのだろうか。』（全日本教育員組合機関誌【クレスコ】2010・3月号「子どもとともに生き方を問い、平和の文化を考える：東京家政学院大学・佐藤広美 P.31より」

平和・反核運動に関心のある者にとっては、平和・反核はどんな人にとっても異存はあるまいと思ひ、運動の広がりや遅さに、ついあせりを感じてしまいがちであるが、上原の指摘をじっくりとかんがえてみる必要があるように思う。

あの激しかった60年安保闘争のとき、次のようにうそぶいた首相がいたことを思いだしながら。

「後楽園球場は満員じゃないか。」

運動は、多様な価値観を認めながら、着実に進めたいものである。